

(1) 検証方法について

①東条学園小中学校通学方法に係る保護者アンケート調査（実施期間R5.3.2～R5.3.8）

〈調査方法〉

東条学園小中学校の1～6年生の保護者に、子どもの通学について気になることがあるかアンケート調査を行った。

対象児童数 356人、回答児童数 172人（回答率48.3%）

〈アンケート集計結果〉

回答数	うち、意見が		回答率
	ある	特にない	
123	44	79	48.3%

※回答は保護者からであるため、回答児童数とは異なる。

〈主な意見〉

- ・夏場の熱中症が心配であり、夏・冬のバス通学を希望する。
- ・低学年の徒歩通学時間が長い。
- ・低学年が一人で帰っているのが心配である。
- ・通学路の安全確保の要望。

②徒歩通学地区の中でも遠距離地区（新定、古家、貞守）への調査

〈調査方法〉

- 児童への聞き取り調査
- 実際に児童が通学する様子、周辺の明るさ等の調査
 - ・保護者への聞き取り調査

〈主な意見〉

- 登下校途中でトイレに行きたくなり、困ったことがある。
- 長期休業期間前の荷物が重く、長い時間歩くとしんどい。
- 下校の際、解散場所までは明るい、冬場に自宅まで歩いた場合、日没時刻を過ぎる。
 - ・長距離、危険箇所を避けるため学校から2km程の距離まで車で送迎している。
 - ・通学時間が、日によって60～90分かかることがあり、心配である。
 - ・この一年で登下校中の怪我や熱中症、体調不良などがあつた。
 - ・夏場はお茶が足りないが、多く持たせると重くなり長距離を歩く子どもに負担がかかる。
 - ・欠席、カリキュラム、親の送迎により少人数になる。

(2) 検証結果から明らかになった課題について

①通学距離にかかわらず、様々な地区から出てきた課題

- ・熱中症への不安
- ・少人数での登下校への不安

②徒歩通学地区の中でも遠距離の地区（新定、古家、貞守）から出てきた課題

- ・体力面での負担が大きい
 - 熱中症のリスクが近距離地区よりも高くなる。
- ・日照時間が短い時期の登下校が不安
 - 早朝の登校、薄暗い時間が危険である。